

特集：丸文創業 180 周年

歴史を紡いできた 「先見」の遺伝子。「先取」の意志。



2024年、当社は創業180周年を迎えました。

独立系のエレクトロニクス商社である丸文は、

特定分野の商材に固執することなく、

環境や社会の変化、市場のニーズに応じて、

多様な製品を取り扱い、お客様と社会の課題解決に取り組んでいます。

「常に時代の一步先を見据え、次のニーズに応える」という、

この「先見」と「先取」の精神は、創業当時から引き継がれ、

新たな価値を創造しています。

時流を先読みした初代角次郎

丸文の歴史は、1844年（弘化元年）、呉服問屋の創業から始まりました。

創業から15年が経過した1859年（安政6）年、鎖国を貫いてきた江戸幕府が横浜を開港。この歴史的な出来事に直面し、創業者の初代堀越角次郎はいち早く横浜に支店を出します。当時の日本は攘夷論が盛んな幕末・維新の激動の時代でしたが、角次郎は時流を先読みし、率先して舶来織物の取り扱いを開始したのです。

モスリン（毛織物）の輸入と同時に、生糸を輸出するなど、貿易商としてその才覚をいかんなく発揮し、事業を拡大していった角次郎は、福沢諭吉とも親交が深く、慶應義塾大学設立に協力するなど、数々の社会事業に貢献しました。国内初の外国為替専門銀行である横浜正金銀行（後の東京銀行。現在の三菱 UFJ銀行）の設立にも非常に深く関わっています。

開国という時代の波に乗り、輸入商社の先駆的存在として事業を成長させ、社会事業にも貢献した角次郎。その先見の明とサステナビリティの考えは、現在の丸文の礎となっています。

「エレクトロニクス商社」丸文の誕生

呉服問屋から不動産事業へと移行した後、1947年、第二次世界大戦後の混乱を受けて、5代目当主の堀越善雄は丸文株式会社を設立しました。

「終戦後の荒廃した日本を再建し経済復興するには産業隆盛を図る以外にない」との決意から、産業先進国の米国からの商品の輸入を開始し、1952年、傘下に数多くの最先端電子機器メーカーを有する米国Rocke International, Inc.と日本総代理店契約を締結しました。

これを皮切りに、現在のシステム事業の主力となっている計測機器や航空宇宙機器、レーザー機器などの取り扱いを開始。1958年には、当時の輸入商社では珍しかった技術部門を社内にも立ち上げてサービスの拡充を図り、エレクトロニクス商社としての実績を積み重ねていきました。

日本の技術革新に寄与

「先見」と「先取」の精神は、日本の技術革新とも密接に結びついています。

1965年には、日本国内で初めて集積回路の輸入・販売を開始し、1975年には宇宙開発事業団（現：JAXA）の「N-Iロケット」プロジェクトに商社として唯一参画し打ち上げを支援するなど、日本のエレクトロニクス産業の基盤を築き、科学技術の発展に寄与しました。

また日本の電機メーカーが積極的に海外進出を始めた1980年代後半からはアジア各国に現地法人を開設。1998年には世界最大規模の半導体ディストリビュータである米国 Arrow Electronics, Inc. と合併事業を開始し、海外でも日本と同じクオリティーのサービスを提供できる体制をいち早く構築しました。この体制は現在も続いており、ワールドワイドでの迅速な部材の調達、海外移管サポートを実現しています。

創業から180年の今

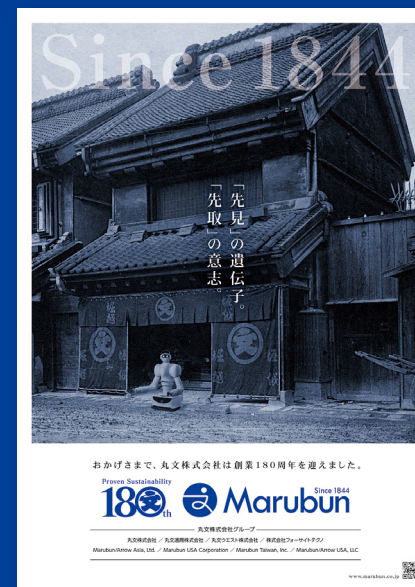
当社は事業の柱である「デバイス事業」「システム事業」に加え、2022年度に新たな事業セグメントとして「ソリューション事業」を新設しました。革新的な商材や技術の発掘、新たなサービスの開発を促進し、高齢化や人手不足、グリーン化などの社会課題の解決に取り組んでいます。また、当社が有する豊富な商材と、これまで培ってきた技術・ノウハウを組み合わせた新たなソリューションの開発も推進しています。

これからも時代のニーズを追求し、さらなる変革と進化を推し進め、豊かな未来の実現に向け、チャレンジを続けてまいります。

180周年ロゴマークと記念ポスター

180周年記念ロゴマークは、創業時の屋号を用いてデザインしました。また“Proven Sustainability”（証明された持続性）を併記し、時代の変化に適応し、持続的成長を遂げた企業であることを表しています。

Proven Sustainability
180th



丸文創業時の社屋とアイオロス・ロボットを同化させることで、創業から現在までの歴史と「先見」・「先取」の精神を表現しています。



丸文が呉服問屋からスタートしたことから着物を用いたデザインとしています。袖を通して腕にロボットを用いることでソリューション事業を、他社に先駆けて輸入販売を開始した半導体でデバイス事業、その後の光（レーザー光）でシステム事業を表現しています。